

事業所における自己評価結果（児童発達支援）

公表：令和4年 3月 3日

事業所名 ひまわりルーム

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○		・運動、ゲーム、感覚遊びなど活動に合わせて部屋を分けて使用している	
	2	職員の配置数は適切であるか	○		・基準の配置人数よりも多く配置している ・ゲームのときはさらに増やしている	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	○			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	○		・お布団からセラピーマットに大幅に変更した	・クッションの劣化が進んでおり、中のスポンジが飛び出している。修繕していく。」
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	○		・計画書の作成を通して、職員全体に目標や支援内容の統一を図っている	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○		・さゆり会のHPに公表している ・活動はフェイスブック、インスタグラムなどに記載している	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか		○		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○		・島内外のリモート研修に参加している	
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	○		・アンケートや聞き取りにてアセスメントを行い、作成している	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	○		・新版K式発達検査やWISCなどを用いて定期的に評価をしている	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	○			
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	○			

適切な支援の提供	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	○		・記録後に次回の計画立案を行う		
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	○		・サーキット内容は毎回変えており、ゲームや感覚遊び、工作なども目的に合わせて変えている		
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成しているか	○		・集団療育を中心に提供しており、必要に応じて個別療育を提供している		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	○		・療育前に必ず、打ち合わせをする		
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	○		・必ず、チームで記録をし、次回の立案まで行っている		
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	○				
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	○		・6ヶ月に1回、支援計画を見直し、作成している		
関係機関や保護者との	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○				
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	○				
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか				・対象児はいない	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか				・対象児はいない	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○			・連絡状の作成や見学、訪問など	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	○			・就学前から教育委員会と積極的に情報共有を進める ・連絡状の作成	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	○			・こども医療福祉センターの地域支援を利用している ・そのときにアドバイスを頂く ・巡回療育相談にも参加している	

連携	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	○		利用児童のほとんどが保育園や幼稚園に在籍しており、児童発達支援の通所時において交流の必要性は低いと考えている	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	○			
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		・療育の前後、サーキット中など保護者と話す時間を意識してとるようにしているが十分ではない	・時間の確保を図る必要がある
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っているか	○		・それぞれのケースに対して相談やアドバイスは行っているが、ペアトレなどのプログラムは行っていない	・こども部会にて、保護者対象の研修会を企画・検討している
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	○		・契約のときに伝えている	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	○		・ガイドラインのわかりやすい様式を作成し、契約のときや面談のときに確認している	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	○			
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	○		・ペアレントメンターを利用したいがコロナ禍で利用を控えた	
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○		・SNS、会報等を利用して、活動の発信はしている ・公式LINEも導入した	
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	○			
39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○		・言葉かけだけでなく、文字におこすなどの工夫をしている		

	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		○		
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか		○	・自由に閲覧できるように設置している	・訓練等の様子はSNSなどを用いて発信していく
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	○			
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	○			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか		○	・保護者からの事前の聞き取りで確認している	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○			
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	○		・虐待防止委員会にて虐待について、身体拘束については学び、職員間で意識を統一している	・現在、身体拘束を必要とする対象児はいない